

新発田市地域公共交通計画の進捗状況について

■評価項目の評価基準について

「A」「B」「C」の評価基準については次のとおりです。

<目標・効果達成状況>

A：事業が計画に位置付けられた目標を達成した

B：事業が計画に位置付けられた目標を達成できていない点があった

C：事業が計画に位置付けられた目標を達成できなかった

※目標・効果が達成できなかった場合には、理由等を分析のうえ明らかにする

■評価指標の年度別達成状況

評価指標	現状値（R4年度）	目標値設定の考え方	R6 目標値／実績値	R7 目標値／実績値	R8 目標値／実績値	R9 目標値／実績値	R10 目標値／実績値
① 営業路線（大形線）の利用者数・収支率・本市の財政負担額【目標1,4】	●利用者数：314,000人/年 ●収支率：77.5% ●財政負担額：0円/年	●利用者数：H30年度水準まで回復（コロナ禍前）  ●収支率：現状を下回らない ●財政負担額：当市の負担なし	●利用者数：329,000人/年 ●収支率：77.5% ●財政負担額：0円/年	●利用者数：337,000人/年 ●収支率：77.5% ●財政負担額：0円/年	●利用者数：345,000人/年 ●収支率：77.5% ●財政負担額：0円/年	●利用者数：353,000人/年 ●収支率：77.5% ●財政負担額：0円/年	●利用者数：361,000人/年 ●収支率：77.5% ●財政負担額：0円/年
			●利用者数：370,940人/年 ●収支率：78.8% ●財政負担額：0円/年	－	－	－	－
			A				
② 市街地循環（あやめ）バスの年間利用者数【目標2】	67,068人	H30年度水準まで回復（コロナ禍前）	71,442人	73,628人	75,814人	78,000人	78,000人
			81,424人	－	－	－	－
			A				
③ 市委託路線の年間利用者数【目標1】	90,355人	・H30年度水準まで回復（コロナ禍前） ・R5以降開始路線は2年目の人数を加算	110,557人	118,870人	130,870人	131,870人	131,870人
			99,329人	－	－	－	－
			C				
④ 市委託路線の財政負担額【目標4】	●市街地循環（あやめ）バス・コミュニティバス：729円/年・人 ●新発田版デマンド方式路線：2,762円/年・人	●市街地循環（あやめ）バス・コミュニティバス：現状を下回る ●新発田版デマンド方式路線：国が適正値と示す2,000円/年・人を下回る	●市街地循環（あやめ）バス・コミュニティバス：729円/年・人 ●新発田版デマンド方式路線：2,000円/年・人	●市街地循環（あやめ）バス・コミュニティバス：729円/年・人 ●新発田版デマンド方式路線：2,000円/年・人	●市街地循環（あやめ）バス・コミュニティバス：729円/年・人 ●新発田版デマンド方式路線：2,000円/年・人	●市街地循環（あやめ）バス・コミュニティバス：729円/年・人 ●新発田版デマンド方式路線：2,000円/年・人	●市街地循環（あやめ）バス・コミュニティバス：729円/年・人 ●新発田版デマンド方式路線：2,000円/年・人
			●市街地循環（あやめ）バス・コミュニティバス：654円/年・人 ●新発田版デマンド方式路線：2,163円/年・人	－	－	－	－
			B				
⑤ 市委託路線の収支率【目標4】	●市街地循環（あやめ）バス・コミュニティバス：10.6% ●新発田版デマンド方式路線：6.8%	●市街地循環（あやめ）バス・コミュニティバス：現状を上回る ●新発田版デマンド方式路線：現状を上回る	●市街地循環（あやめ）バス・コミュニティバス：10.6% ●新発田版デマンド方式路線：6.8%	●市街地循環（あやめ）バス・コミュニティバス：10.6% ●新発田版デマンド方式路線：6.8%	●市街地循環（あやめ）バス・コミュニティバス：10.6% ●新発田版デマンド方式路線：6.8%	●市街地循環（あやめ）バス・コミュニティバス：10.6% ●新発田版デマンド方式路線：6.8%	●市街地循環（あやめ）バス・コミュニティバス：10.6% ●新発田版デマンド方式路線：6.8%
			●市街地循環（あやめ）バス・コミュニティバス：11.8% ●新発田版デマンド方式路線：9.6%	－	－	－	－
			A				
⑥ 公共交通空白地域の解消率【目標1】	68.00%	新発田版デマンド方式整備後の想定解消率を上回る	75.0%	79.0%	79.0%	79.0%	79.0%
			81.4%				
			A				
⑦ 数値目標設定の路線数【目標3】	1路線	運行開始から3年を目途に利用者数目標値を設定する	3路線	4路線	6路線	9路線	9路線
			3路線				
			A				
		達成状況	令和6年度の数値目標を設定した路線は3路線と目標を達成した。川東地区、松浦地区に加え、豊浦地区において新たに目標設定を行った。今後も運行開始から3年を目途に順次年間利用者数の目標値を設定し、地域と共有・管理していく。				

施策1市外を結ぶ公共交通の維持・利便性向上		計画どおり	計画よりも遅れている	未実施	R6	R7	R8	R9	R10
施策1	事業1-1市外を結ぶ公共交通の維持	●			随時実施（県生活交通確保対策協議会と連携した取組）				
	事業1-2鉄道との乗継利便性の向上	●			随時実施（鉄道ダイヤ改正に合わせたバス時刻見直し）				
	事業1-3羽越本線の高速化等に向けた要望活動の実施	●			随時実施				
	事業1-4高速バスの維持	●			随時実施				
施策2周辺地域から市街地への移動手段の維持・確保		計画どおり	計画よりも遅れている	未実施	R6	R7	R8	R9	R10
施策2	事業2-1市街地にアクセスしやすい移動手段の確保	●			地域内フィーダー系統確保維持計画の策定及び見直し 随時実施（運行事業者との協議）				
	事業2-2利用状況や地域状況に応じた適切な運行手法の検討・導入	●			新発田版デマンド方式の拡大 新たな手法の確立 実証運行 運行見直しの検討 本格運行 紫雲寺地区運行 基準値の設定 佐々木地区運行 基準値の設定 予約システム検討 予約システムの導入				
施策3市街地内における移動利便性の向上		計画どおり	計画よりも遅れている	未実施	R6	R7	R8	R9	R10
施策3	事業3-1市街地内で移動しやすい環境の維持	●			地域内フィーダー系統確保維持計画の策定及び見直し 随時実施（運行事業者との協議）				
	事業3-2市街地循環（あやめ）バスの運行ルート見直しに向けた検討	●			見直し検討	実証運行	本格運行		
施策4地域で地域の公共交通を守るしくみの維持		計画どおり	計画よりも遅れている	未実施	R6	R7	R8	R9	R10
施策4	事業4-1数値目標の達成状況に応じて増減便する仕組みの導入検討	●			随時導入				
	事業4-2周辺地区における公共交通の現状把握及び方向性を検討する部会の継続実施	●			佐々木地区立ち上げ	随時実施（各地域、年2回程度）			
施策5市民の公共交通に対する理解度向上と利用促進		計画どおり	計画よりも遅れている	未実施	R6	R7	R8	R9	R10
施策5	事業5-1公共交通の乗り方・運行内容の周知	●			随時実施				
	事業5-2公共交通に関心をもってもらうイベントの実施	●			随時実施				
	事業5-3高齢者の公共交通利用促進	●			継続実施		新制度検討	新制度導入	
	事業5-4待合環境の整備	●			継続実施		新制度検討	新制度導入	
	事業5-5駐輪場の維持・整備	●			随時実施		新制度検討	新制度導入	
	事業5-6駅前広場の適正な利用とキスアンドライドの推進	●			継続実施				
	事業5-7ノーマイカーデーの継続実施	●			継続実施				
	事業5-8キャッシュレス決済の利便性向上		●		見直し検討	次期システムの導入			
施策6わかりやすい情報提供		計画どおり	計画よりも遅れている	未実施	R6	R7	R8	R9	R10
施策6	事業6-1既存システムを活用したバス位置情報の提供路線拡大	●			対象路線の拡大	新システム検討	新システム導入		
	事業6-2GTFS データを活用した情報発信		●		GTFSの整備	Googleマップ反映	随時更新		
	事業6-3「わたしの時刻表」の作成による乗り継ぎ情報の提供	●			継続実施	提供方法の検討	新システム検討	新システム導入	
施策7輸送資源の総動員及び新技術による利便性向上・効率化		計画どおり	計画よりも遅れている	未実施	R6	R7	R8	R9	R10
施策7	事業7-1輸送資源の総動員と適切な使い分けによる運行の効率化	●			輸送資源の洗い出し	先進地調査	検討・協議		実証実験
	事業7-2通学に対応したコミュニティバスの運行継続	●			新発田版デマンド方式の拡大		新たな手法の確立	実証運行	本格運行
	事業7-3新技術の導入可能性の検討	●			先進地調査・検討		導入技術の選定	運用方法の検討	実証実験
	事業7-4EV バス等環境に配慮した車両の導入	●			導入検討	実証運行	本格運行		
R6進捗状況別事業数		23	2	0					
全事業数		25							